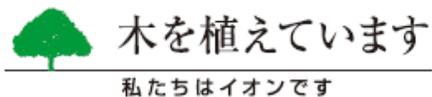


イオングループ商品マスター管理の取組 eBASEカンファレンス2016

2016年10月 7日（大阪）
2016年11月11日（東京）
イオンアイビス(株)ITソリューション本部
MDMチーム

<http://www.aeonibs.co.jp>



1 イオンアイビス会社概要

2 イオングループでの役割

3 事業内容

4 MDMのミッション

5 取組の歩み

6 現状

7 課題

8 今後の取り組み

9 食材えびすの取組

10 食材えびすの可能性

11 最後に



木を植えています

私たちはイオンです



グループ共通システム・事業別システムの企画・開発・運用、及びグループ各社の人事・経理業務等の受託業務の運営を行っております。

設立
従業員数
所在地
資本金

2009年8月21日
約360名（正社員）
千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
4億9千万円

設立背景

2009年、GMS事業向け中心のシステム基盤・開発から、全グループ企業へ貢献する機能会社としてイオンリテールより独立。



木を植えています

私たちはイオンです



300を超える企業数、52万人の従業員が働くイオングループ。
その進化をIT面で支えることで、人と社会に貢献する。それがイオンアイビスです。



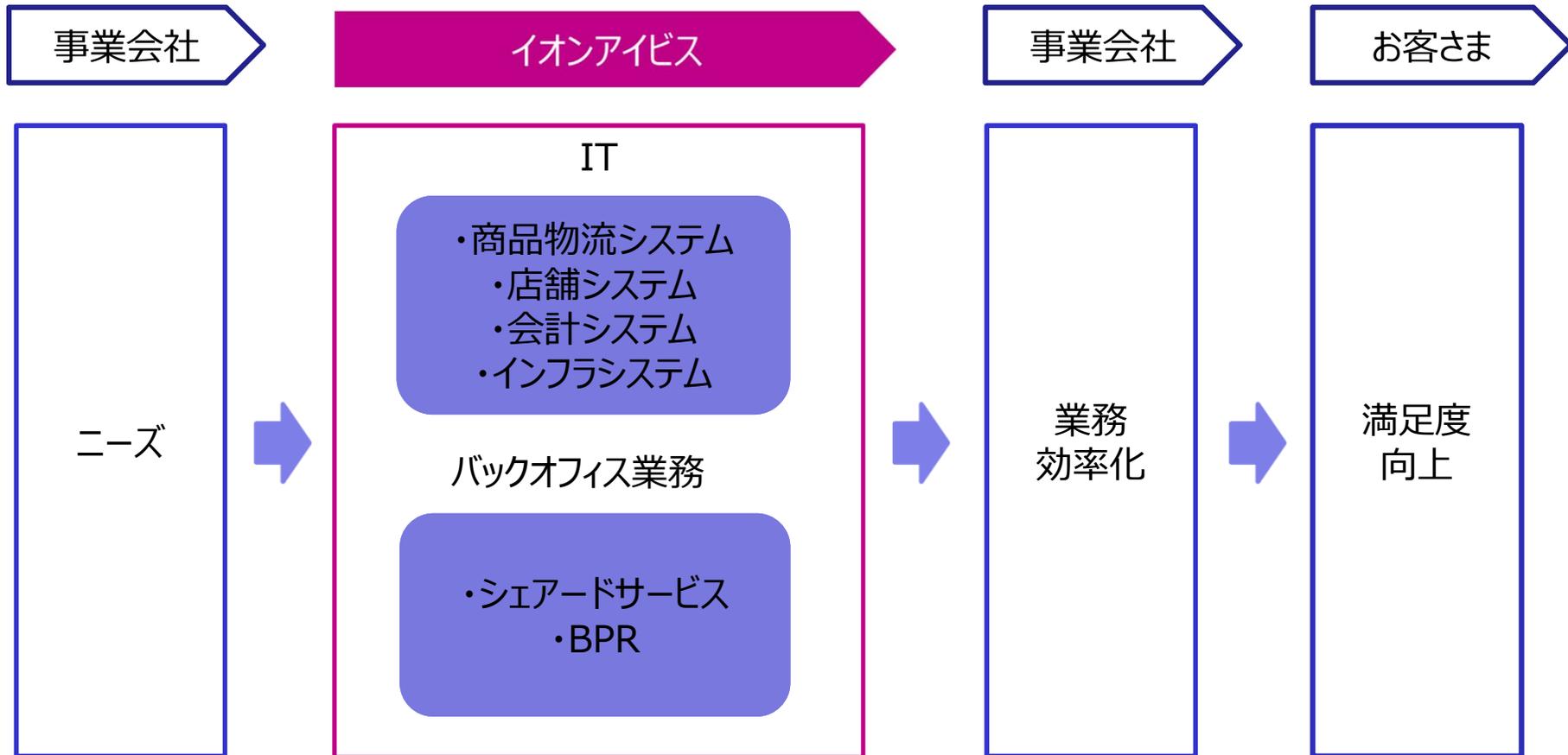
イオンアイビスがIT面で支える



木を植えています
私たちはイオンです



各事業会社のニーズに合わせて、ITソリューションとバックオフィスの面でソリューションを提供。事業会社の業務効率化、ひいてはお客さまの満足度向上に貢献しています。



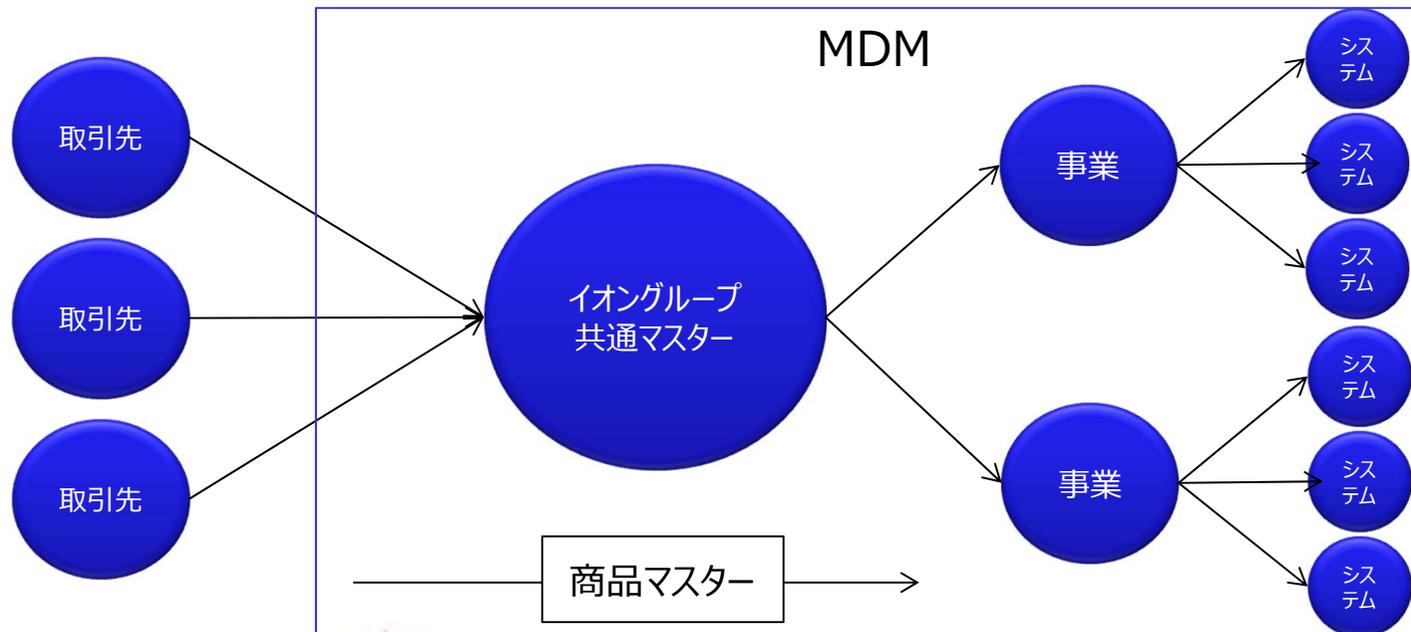
MDMとは

MDM「マスターデータマネジメント」とは

企業内に散在するマスターデータを、品質を保ちながら一元管理すること。

MDMグループのミッション

1. グループの商品マスターを一元管理するシステム構築
2. グループの商品マスター管理プロセスの標準化



2007年：品質管理におけるシステム導入（eBASE）

2012年：グループ商品マスター管理システム（1worldsync）導入

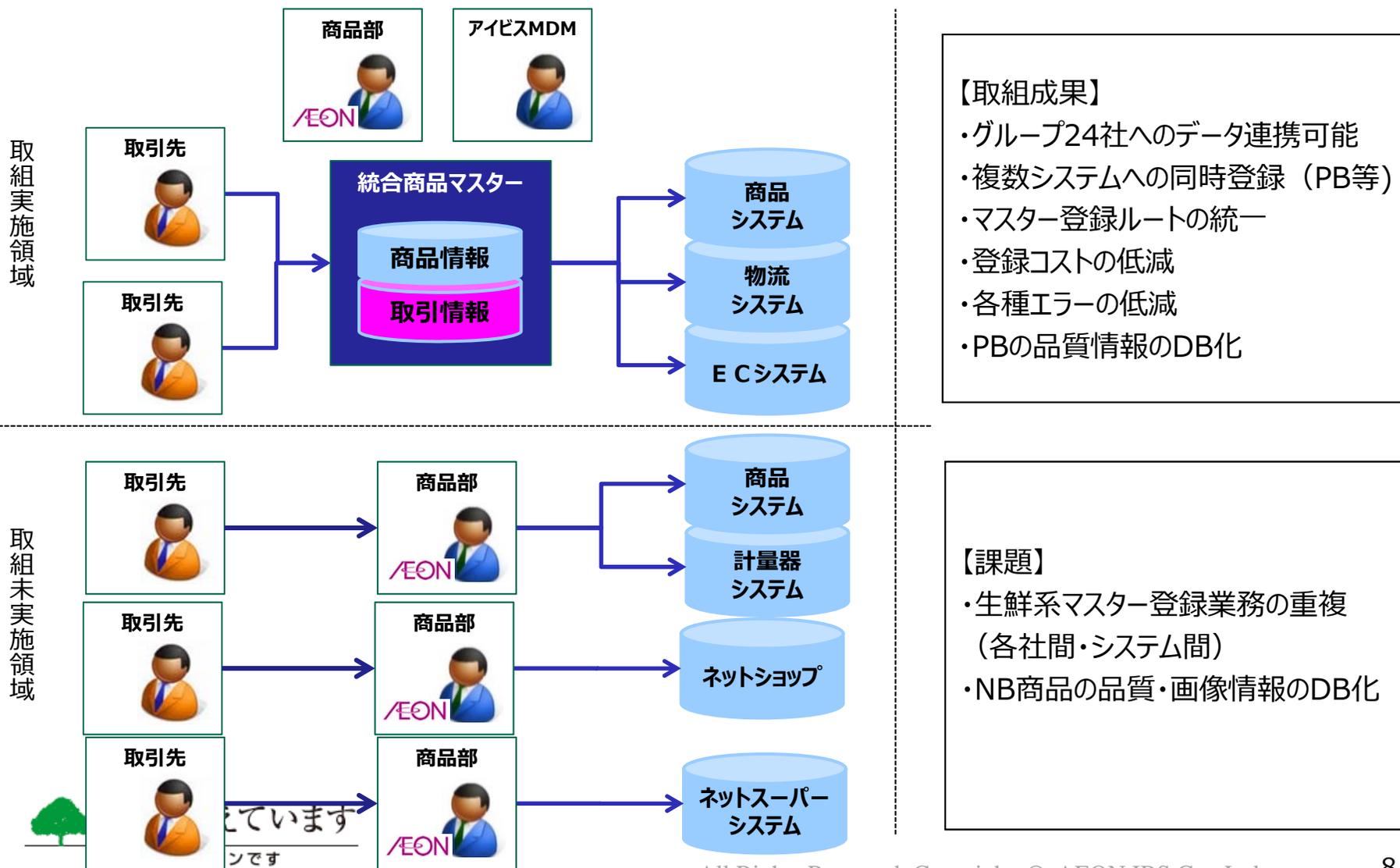
2016年：商品マスター管理システムと品質情報管理システムをeBASEへ統合

年度	商品マスター管理	品質管理
2007年		イオン(株)eBASE導入 GMS事業生鮮・デリカ部門品質管理開始
2010年	商品マスター一元管理プロジェクト発足	
2011年	MDMチーム発足	
2012年	PIM（1worldsync）導入 商品マスター一元管理開始	
2013年		イオントップバリュ(株)eBASE導入 プライベートブランドの品質管理開始
2014年	eBASE食材えびすとの連携検討	
2015年	グループ24社への導入完了	
2016年	eBASE移行決定 eBASEへシステム統合	各種事業にて検討中

6 : イオングループのマスター管理 (現状)

2013年度～2016年度 : グロサリー・HBCの領域は導入完了

2016年度以降 : eBASEへの統合と対象領域の拡大実施



- 商品情報だけでなく、画像情報、品質情報をいかに安く、早く、正確に集めるのか？
- 情報の正確性はどのように担保するのか？

画像情報

基本情報

Tesco Stonebaked Thin 2 Pizza Bases 330G

£1.00 (€0.30/100g)

Quantity: 1 Add

栄養成分表記

Energy	Fat	Saturates	Sugars	Salt
1900kJ 449kcal	5.1g	0.5g	2.7g	1.2g
22%	7%	3%	3%	20%

おうちでイオン
イオンネットスーパー

画像情報

基本情報

カルビー フルーツグラノーラ(徳用)
800g

JANコード: 4901330740672

本体価格: **760円**
(税込価格: 820円)

数量: 1 **カートに入れる**

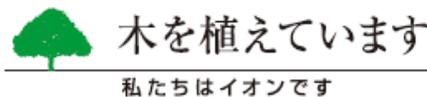
栄養成分表記

商品説明
自家製甘さと香ばしさの...

お届けについて
配送区分: 在庫品
支払方法: イオンカード、他社カード、代引き(店舗によって商品券での支払い含む)、玄関先WAON
広域エリアでは玄関先WAONがご利用できません

法律 EU 1169/2011 2014年12月13日以降施行
原材料、栄養成分、アレルギー情報は店内だけでなく
オンラインでの表示も義務化

イオンでは原材料、栄養成分、アレルギー情報に未対応
日本国内でもオンライン上での表記が検討されている為
対応が急務

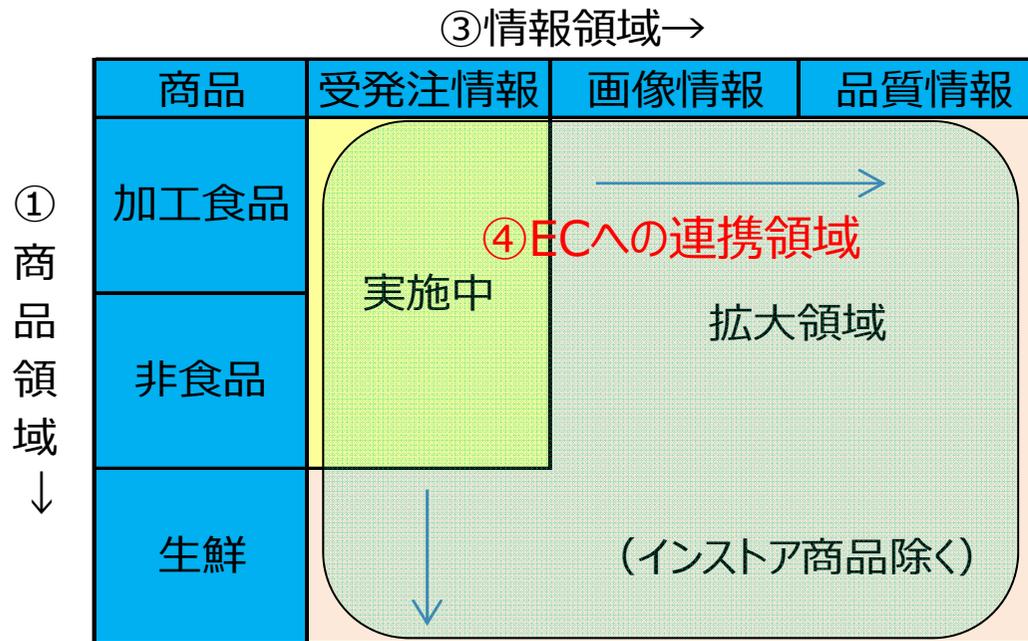


（１）．データ収集領域の拡大

- ①商品領域： 対象カテゴリーの拡大
- ②情報領域： 現状の受発注情報から画像情報、品質情報へ拡大
- ③事業領域： 食材えびすのグループ共同利用を推進

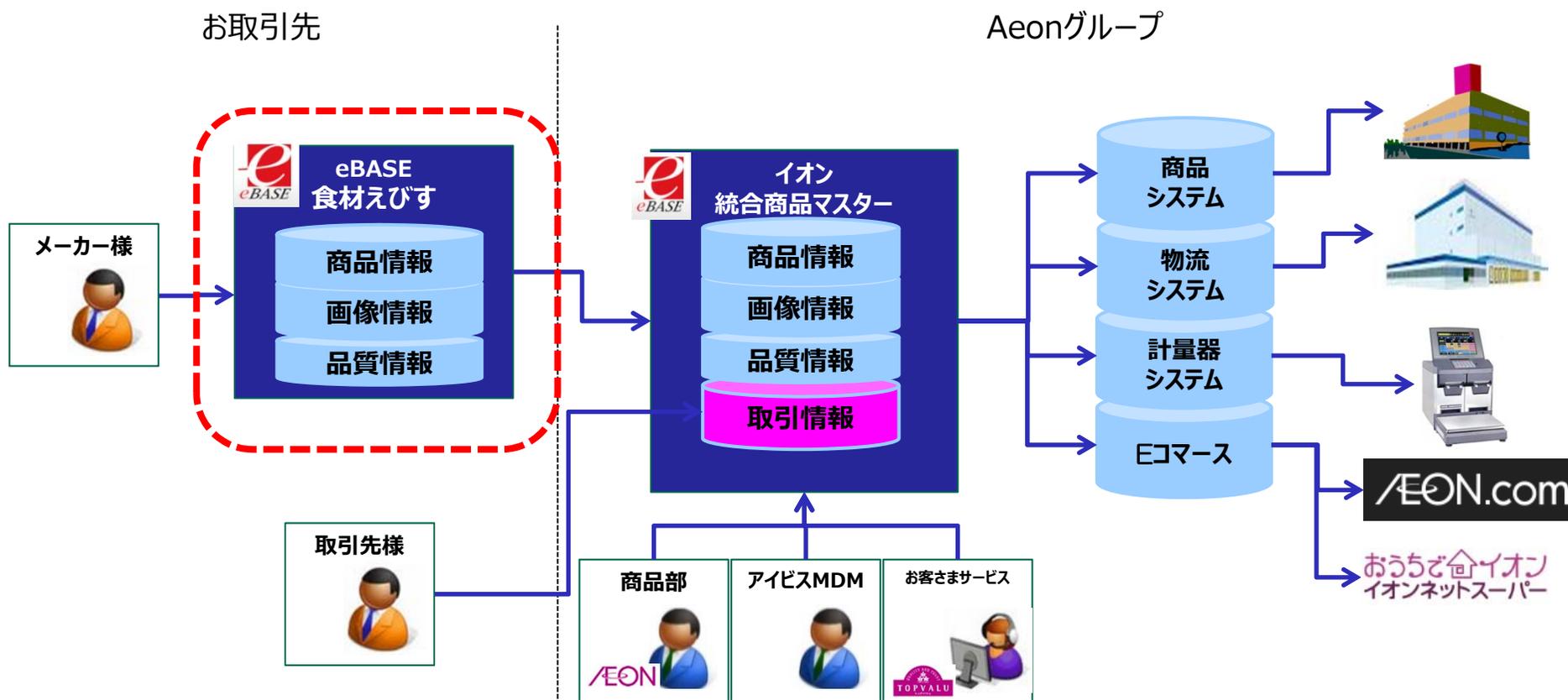
（２）．収集データの活用

- ④商品領域、情報領域を拡大し、ECへ連携を実施



AEON 8-2:イオングループのマスター管理 (今後の取り組み)

- ・イオングループのマスター管理システムをeBASEへ統合
- ・食材えびすを活用し、画像情報、品質情報の収集を実施
- ・食材えびすの品揃えの充実、カバー率が今後の重要なポイントとなります。



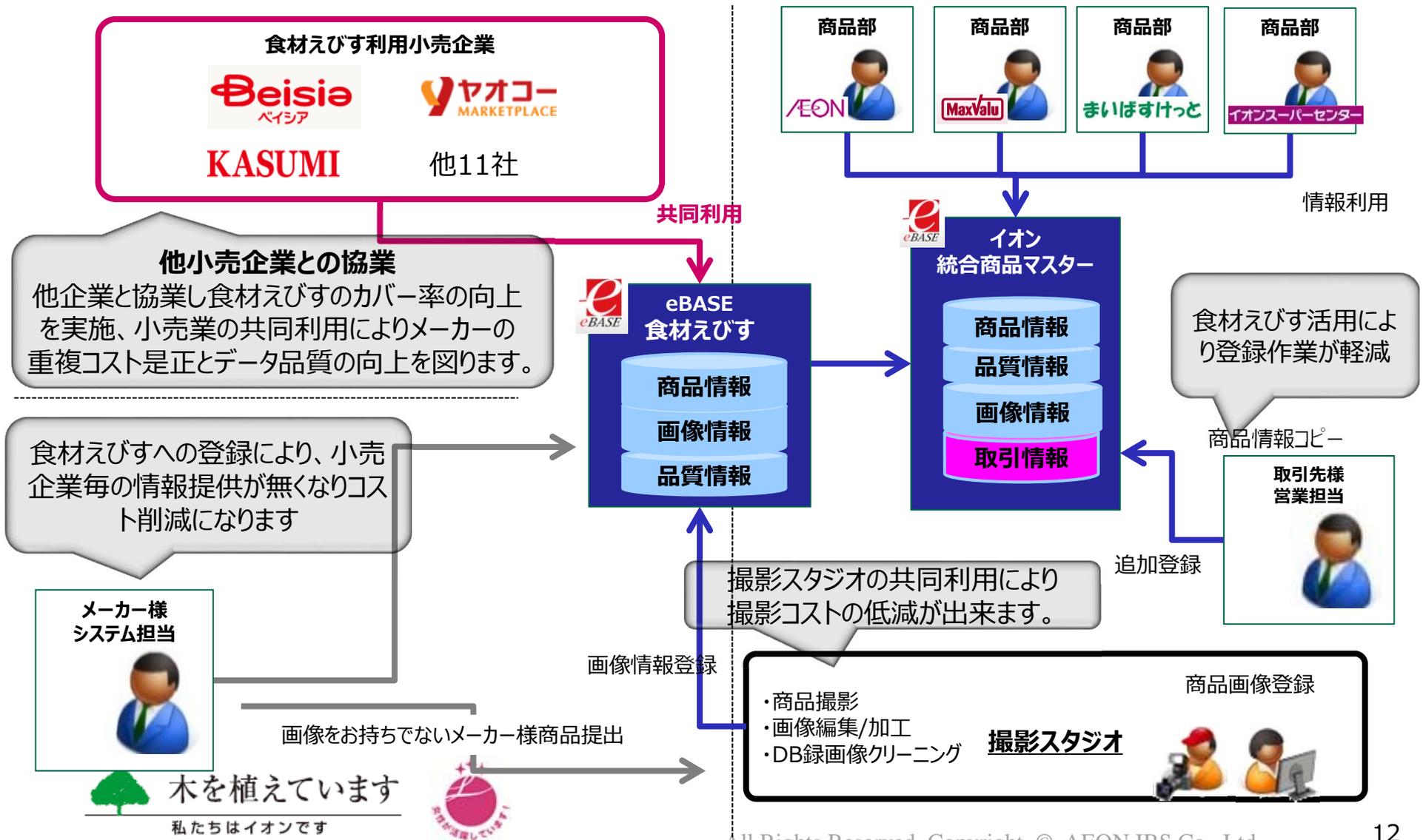
木を植えています
私たちはイオンです



20161007版

9 : 食材えびすの取組 (品揃えカバー率向上)

新規システムでは日本国内のマスターデータベース (食材えびす) と連動しています。
 食材えびすに保有している情報(基本、物流、品質、画像) を取得することが可能になります。
 また、他の小売企業様も食材えびすを活用しており、マスター登録で発生するコストの低減が図れます。



10:食材えびすの可能性

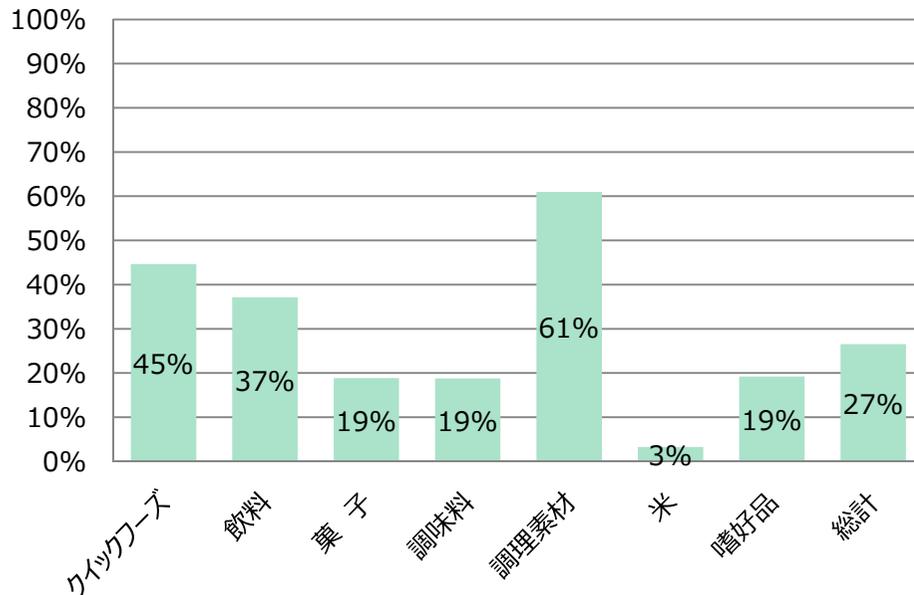
eBASEご利用ユーザー様に食材えびすへデータ登録をご協力頂くことにより、現状約27%のカバー率を、約86%のカバー率まで上げることができます。

メーカーカバー率

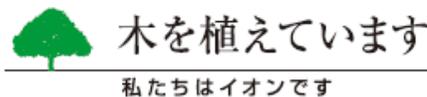
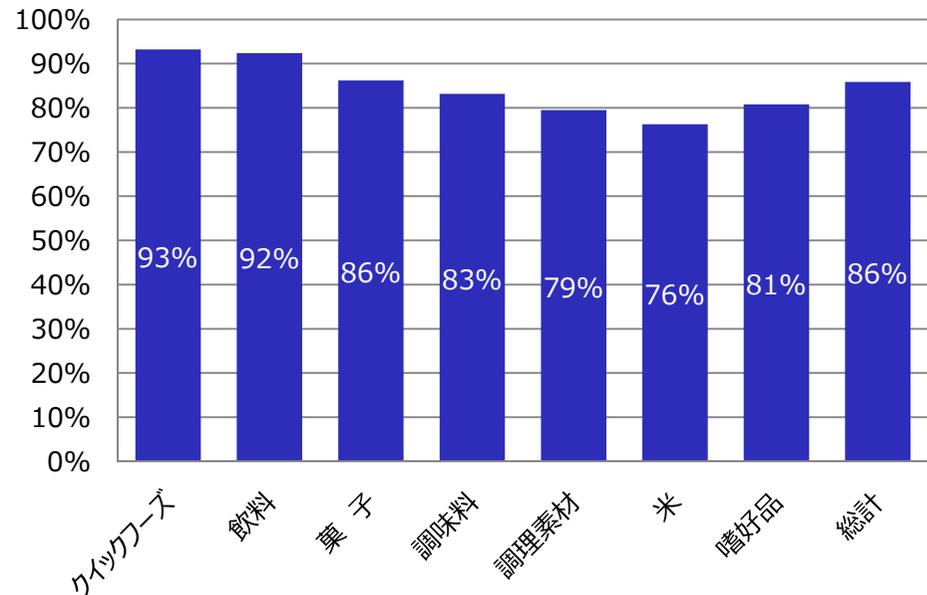
イオン品揃メーカー数	eBASEユーザー数	カバー率
4,541	2,620	57.7%



食材えびす 品揃カバー率 (現在)



食材えびす 品揃カバー率 (可能性)



日本では複数の小売企業が活用している商品DBはeBASEだけです。
 製・配・販が協力により、食材えびすが日本版GDSNになれることを期待しています。
今後イオングループでは商材えびすの活用を積極的に推進していきます。

